



編集発行所
〒990-2492 山形市鉄砲町一丁目 15-64
山形県立山形西高等学校
嬰鳴同窓会
電話 023-641-3504



会長 大宮 文子

母校の創立百周年記念の年を

迎えてお祝いと感謝

いよいよ母校の創立百周年を迎えました。すばらしい伝統と名譽に對して、心からお祝いとお慶びを申し上げます。又新体育館の竣工と、音楽室・特別教室の完成と併せてお祝い申し上げます。こんなに揃って作られたのは、校長先生のお力もあつた事でしょう。有難く存じます。一世紀を黙々と苦難に耐えて歩み続けた母校、そしてそこから生まれ出た嬰鳴同窓生、二万何千人の会員は、各自、思う方面で活躍なさいました。今なお多くの会員は嬰鳴の名に恥じ

ない活躍をして居られます。又、同じ会員として、今日の盛儀に巡り会えた僥倖に對してお慶び申し上げます。この様な幸運を受けて、母校に是非協力しようということ、で篤志寄付をお願いしました。処、期限の日まで目標額に達し、更に次々と送って下さいます。二倍位の篤志が集まりました。私共はその母校愛の優しさに触れて感動して居ります。さつそく三月末に五百万円を学校にお贈り致します。学校でも大変喜んでおられます。残金については前にも申し

舞臺に緞帳を作るのですが、これは果の方から資金が出ませんので後援会、PTA、同窓会で負担することになって居ます。十月の二十二日、創立記念の儀式を新体育館で行い、祝典は場所を変えて行いますが、出席者は場所の限度がありますので、人数制限があります。在校生、職員、旧職員、PTA、同窓会、関係係、市関係等多くの方々が御出席になりますので、同窓生は二百人の枠内で出席者が限られています。皆さんを出席させてあげたいのですが、こんな事情で難しくなりました。人選は評議員、クラス幹事の方々に相談の上事務局の先生方と共に決めていくつもりでございます。先日六月二十五日の創立記念日はお祝い行事としていつもやっている全校合唱コンクールがありまして、三年六組に同窓会の杯が渡されました。六月二十一日には同窓会東京支部総会が開かれ、私と副会長二人で出席して参りましたが、大変賑々しく華やかな会でしたが、同窓生の強い絆を実感して参りました。懐かしい方々にお逢い出来るのは、人生の宝物の一つですね。

実・推進に努めるべく決意を新たにいたしました。ところで、この山形新聞に創立百周年を迎える伝統校として本校を紹介した記事が掲載されました。同窓生の皆様方の輝かしい業績とともに母校に寄せる熱き想い、そして、母校がさらなる飛躍に向けて、挑戦をするこ

とへの期待が綴られており、激励、肝に銘じたところでありませぬ。学校といたしましては、鳥が和して睦まじく鳴き交わすように、朋友、師弟が信頼し合い、互いに励まし合つて高い目標に向かつて心を磨く、という

精神の高揚を培う教育活動の充たすべく、百周年の節目を意欲的に迎へようとしております。



学校長 安食 和彦

ごあいさつ

学校長 安食 和彦

盛夏の候、同窓会の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、日頃から母校の教育活動の充実・発展のため多大なるご支援とご協力を賜り、誠に有難く、重ねて衷心よりお礼申し上げます。今年、母校が百年の歴史の歩みを刻む祝うべき節目の年を迎えます。

この精神を活かし、生徒は百周年記念事業実行委員会による「創立百周年にふさわしい、伝統の重みと未来へ飛躍する力と女子校らしい、たおやかさ」を象徴するシンボルマークへの応募。校友会活動においては、大事業の一つである嬰鳴祭の目的に百周年を振り返り、これからの西高を考える機会にすべく、百周年の節目を意欲的に迎へようとしております。

そして、六月の創立記念日の合唱コンクール、七月の校内総合体育大会、八月の嬰鳴祭、十月の記念式典、嬰鳴女声合唱団、山形交響楽団による記念演奏会等の鑑賞などによって、百周年の歴史の重みと真剣にとらえ、未来への飛躍を創造して居るところであります。さらに、筆曲部・演劇部・音楽部などの定期演奏会や創立百周年を百匹のメダカにたとえた水墨画など六十点を展示した嬰鳴書道展(文翔館)の開催があり、百周年にふさわしい活動に胸を躍らせております。

百周年の節目の年が二十一世紀に向けて、新たな歴史と伝統を築く出発の時となることを祈念するとともに、嬰鳴の精神が脈々と息づいていくことを願つてあいさついたします。



創立100周年記念事業

記念式典の開催

七月一日の「平成十年度第二回実行委員会」において、式典の正式名称や内容について協議され、次のように決定しました。

式典の名称
山形県立山形西高等学校創立一〇〇周年記念並びに体育館・特別教室棟竣工記念式典

日程
平成十年十月二十二日(木)
午前九時十分開式

会場
山形県立山形西高等学校体育館(落成間近の新体育館です。)

内容
記念式典の後に、引き続き記念行事として山形交響楽団の演奏会を行います。また嬰鳴女声合唱団からも演奏いただく予定です。

当日午後には、場所をオースマホテルに移して祝賀会も行われます。記念式典、祝賀会ともに、会場

頒布価格
六、〇〇〇円

平成十一年二月
今年十月に行われる記念式典についても載せる関係で、記念史の発行は来年二月になります。

シンボルマークの決定
「創立百周年記念シンボルマーク」の図案について、在校生に募

集し、一〇〇点ほどの作品が集まりました。五月二十八日の選考会において優秀作品六点が選ばれ、その中で、三年の大風昌子さんの最優秀作品がシンボルマークと決定しました。「創立一〇〇周年記念事業」の見出しの上につけてあるものがそのシンボルマークです。

第二体育館と音楽堂の解体作業
同窓生の学舎としても愛着のある第二体育館(旧体育館)と音楽堂も、ついに解体されることになりました。今年の十月二十四日(出)以降、解体工事着工の予定です。

寄付金の状況
クラス幹事の方々を通してお願い申し上げた寄付金についてご報告申し上げます。各学年毎の目標額が二十万円、平成八年九月から平成九年十二月までの募金期間ということでご連絡、お願いを申し上げておりましたが、お陰さまで期限までに目標額に達し、更にその後の寄付も合わせますと五百万円を大きく上回る額となっております。

同窓生の皆様方の母校を思う御心に感謝申し上げます。また、お忙しい中さまざまな形でご協力くださった評議員、クラス幹事の皆様方に厚く御礼申し上げます。

嬰鳴OG文化部長
とき
十月二十日(火)～二十五日(日)

文翔館
内容
絵画・書道・彫刻・工芸・華道・茶会・音楽会など

平成10年度 嬰鳴同窓会総会のお知らせ
今年度の総会はホテルメトロポリタン山形(山形駅ビル)で行われます。

山形県立山形西高等学校 創立100周年
嬰鳴同窓会総会

●平成10年 11月8日(日)
●午前10時～
●ホテルメトロポリタン山形

・とき 11月8日(日)
・ところ ホテルメトロポリタン山形
・会費 5,000円

平成九年度同窓会総会は十一月八日(土)オノマホテルで開催されました。幸いこの日は天候に恵まれ、青い空が広がって雲一つない秋日和でございました。

平成9年度嚶鳴同窓会総会

ご来賓の皆様や恩師の先生方、米寿・喜寿の皆様、多くの先輩・後輩をお迎えし、当番学年を合わせて六百人の参加者を得て盛会となりました。今日の日は待ちかねていたという風に、久しぶりに再会を喜び合う楽しそうな笑い声や華やいた雰囲気がかくはしこに湧き起こり、喜びの輪が広がっていったように感じます。

大宮文子会長より米年の創立百周年記念行事に對しての同窓生からの寄付の状況や御礼の言葉が述べられました。茂木教頭先生から遺跡が出てきて新体育館の工事が少し遅れたことや、三年掛かりで取り組んでいる記念史の発行のこと等、百周年に向けて大きな事業が着々と進められてい

ることが報告されました。議事は堤佳子副会長が議長となり、厳粛に滞りなく進行されてゆきました。恩師でいらつしやいます横田光正先生、川合俊一先生、諏訪秀隆先生よりご挨拶を頂戴致しました。先生よりご挨拶を頂戴致しました。

別のものでございます。そして、潤しながら賑やかに宴が深まってゆきました。かねてより米寿の方から、日嗣の皇子(旧校歌)を力いっぱい歌いたいと伺っておりましたので、同窓会の楽しみの一つ、アトラクシオンは渡部信子さんのピアノ演奏でお寛ぎいただきました。僚子さんは東京在住の新進のピアノで、お母さまが当番学年の方でいらつしやいます。演奏曲目も私達に馴染み深い小曲を選んでい

男子高校で十四年間に教鞭を執られた後、西高に赴任された最初の印象は?とお聞きすると、「生徒全員が同じ顔に見えること。」と、今でもあの当時の強烈なイメージを思い出されるかのようでした。しかも着任後にはすぐ二年生の修学旅行があり(当時は春の修学旅行でした)、クラスの生徒達の顔を覚えられなかった先生は、カウンターを持ってバスの乗り降りの人数を確認したそうです。何事にも動ぜず、いつも穏やかな笑顔を絶やさない先生が、必死にカウンタ



恩師を訪ねて

小和田 仁 先生

—仁しく生徒を愛し仁しく愛される先生—
—を押ししている姿を想像して、思わずニンマリとしてしまいました。その後、七年間の西高での生活は、優しくゆつたりと生徒達を包み込むような古文(現文)の授業と、放課後、テニスコートを走り回るスポーツの日だったようです。山形県教育センター、東高校を経て山形大学に行かれても、西高の生徒達と楽しく過ごした思い出が断ち切れず、テニスのサークルを作つて、今でも週に一度山大でテニスを楽しまれています。今年、山形大学の教授を退官なさり、「毎日が日曜日だよ。」とおっしゃって微笑まれますが、娘さん達に勧められて始めたゴルフや、以前習っていた墨絵の教室に再び通うなど、大いに趣味の生活を楽しんでおられる様子。又、国語教育会に於ける小和田先生の偉大さ、そのお人柄にもよるのでし

守って下さっていたからなのだ、改めて感謝した次第です。今年二月、退官記念講義を山形大学で拝聴した際、教室いっぱい高校や大学での教え子達の姿がありました。又、退官記念号として出版された「実践国語」の中には、「山形県仁しく国語を語る会」の沢山の方々が、小和田先生との思い出を書き留められています。私に語られる先生の姿は、私達の知っている先生と、全く同じものでした。どこにあつても、誰にでも、平等に私達を愛して下さる先生は、同時に、全ての教え子達に今も愛される、素敵な恩師なのです。(昭和四十六年西高卒 山田 美恵 藤原千鶴子)



今年母校は創立百周年にあたり、その記念事業が着々と進められており、秋には完成を祝う記念式典も予定されていることや、在校生の活躍ぶりなどが披露されました。お話を伺いながら、私達同窓生も、それぞれに学舎で過ごしたあの頃に思いを馳せ、懐かしさで一杯になりました。

再会を喜び合つて

～平成10年度嚶鳴同窓会東京支部総会～

今年母校は創立百周年にあたり、その記念事業が着々と進められており、秋には完成を祝う記念式典も予定されていることや、在校生の活躍ぶりなどが披露されました。お話を伺いながら、私達同窓生も、それぞれに学舎で過ごしたあの頃に思いを馳せ、懐かしさで一杯になりました。

い語らいの輪が広がりました。今回のエンターテイメントは、四十七年卒の同窓生石橋曉美さんのバイオリン演奏でした。新日本フィルハーモニー交響楽団で活躍され、現在はフリーの演奏家として幅広く活躍中と伺っております。そして更に今年は、多方面で活躍中の東京嚶鳴女声合唱団の方々に、特別に出演していただきました。香り高いコーヒーをいただきました。石橋さんの心にしみるバイオリンの音色と、合唱団の素敵な歌声に耳を傾け、しばし日常の雑事から解放され、楽しいひとときでした。

戦中戦後の様々な苦難を乗り越え、美しく年を重ねられて、今なお輝いておられる諸先輩、次代を担う子供達を立派な社会人として育て上げ、現在は自分の趣味や特技を生かして地域で活動している仲間達、そして現役として、母親として一人何役もこなしている若い後輩達、このように世代を超えて一同が集い、再会を喜び合えることは素晴らしいことだと思います。これまで会の運営にご尽力下さった多くの方々に感謝し、これからも未永く続くことを願っております。

今年準備にあたりましたのは、昭和三十三年卒業生です。神尾支部長さんをはじめ、工藤・遠藤両副支部長さんの適切なご助言と、役員、評議員の皆様のご協力により、無事に会を終了出来ましたこと深く感謝いたします。私達同期生の大半は、今年中に還暦を迎えます。そんな仲間が協力して、役目を果たせた喜びは格別の思いで、これからも健康で参加出来ることを願いつつ、友人はかけがえない財産」という思いを、改めてしみじみと感じた一日でした。(昭和三十三年西高卒 斯波 洋子)

お祈り申し上げます

- 長岡(明41高女) 山科(昭14高女) 金子(昭16高女) 稲垣(昭16高女) 佐藤(昭16高女) 守田(昭16高女) 菅野(昭16高女) 芳賀(昭16高女) 鎌田(昭16高女) 菅野(昭16高女) 佐藤(昭16高女) 芳賀(昭16高女) 鎌田(昭16高女) 菅野(昭16高女)...

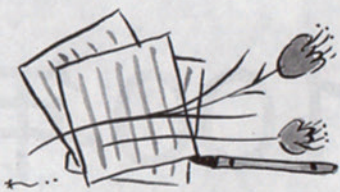
半世紀経つた

「雪割草」たち

昭和二十三年卒 伊藤 清

昨年の梅雨の始まる頃、山形第一高女の校舎再建の情熱に燃え復興の歌を伴って作曲された安藤淑子さん(旧岡本さん)より、波瀾に満ちた難しい時期の西高校史の執筆を手がけられた日野正先生から届いた原稿を一緒に読み合わせました...

同窓生からのお便り



フランスのリオンから

平成元年卒 武内 朋子

創立百周年記念にあたり、一筆添えさせて頂きますこと、大変光栄に思います。現在はフランスのリオン国立歌劇場で、専属研修歌手として生活しています...

これから

夢を作る仕事を

昭和四十八年卒 渡辺えり子

西高卒業後、演劇をやるために上京し、二十五年間、この仕事を続けています。昨年暮に二十年間主宰してきた劇団を解散し、魂が抜けてしまっ



たような捕え所の無い精神状態が続いています。本当は一年間ほど充電して、悩むだけ悩んで来年からのことを考えようと思っていました...

西高時代、両親にも先生方にも猛反対された演劇への道でした。それでも一人で果てのない世界へ足を踏み出した、あの十八歳の時

「ファイガロの結婚」「魔笛」「ウェストサイド物語」等に出ました。思えば、今の私の原点は西高時代にあったようです...



八月一日に県主催、県内ロータリークラブ・国立音大同窓会および嚶鳴同窓会の後援で文翔館においてリサイクルをさせて頂きました...

人生の中で、かけがえのない時を過ごすであろうたくさんの先輩たちが、この学び舎で素敵な出会いを繰り返して下さるよう、願っております。



ポーランドの子供達と学んで

昭和六十三年卒 駒延 法子

一九九七年四月、旧共産圏、東欧の国ポーランドにボランティア日本語教師として渡った。この国の義務教育は、日本と同じ七才から十五才だが、小・中という切り分けはない。

みんさまのお便りを

おまちしています。

今回から、「同窓生からの便り」のコーナーを設けました。これも、様々な分野で活躍なさる同窓生の方々をご紹介申し上げたい...

職員動向

- 津金今朝夫(数学)講師として勤務
北原 章(社会)
伊藤 行生(国語)講師として勤務
(転入)
奥原 秀徳(教頭)山形中央高より
佐藤 正幸(事務部長)知事部局より

後輩たちの活躍

- 放 送 部 七月 NHK全国放送コンテスト(東京)
なぎなた部 八月 全国高校総合体育大会(香川)
弓 道 部 八月 全国高校総合体育大会(愛媛)
書 道 部 八月 全国高校総合体育大会(鳥取)
論 議 部 八月 全国高校総合体育大会(鳥取)

嚶鳴同窓会評議員

Table listing members of the alumni association council, including names, graduation years, and schools.

*評議員は来年改選となります



- 明31 山形市議会において山形市立高等女学校設立を決議
- 明31 開校式挙行、七月一日に授業開始
- 明33 県移管となり山形県山形高等女学校と改称、明35山形県立女子師範学校と併置
- 明36 嚶鳴会発足
- 明41 東宮殿下(大正天皇、本校舎を御旅館に充て四日間御滞在
- 明41 旧校歌制定
- 明44 技芸専修科を廃して実科を設置
- 明44 山形市の大火で高等女学校寄宿舎類焼
- 明45 補習科を一部、二部に分ける
- 大2 高等女学校寄宿舎落成(収容人員一六〇名)
- 大11 実科廃止、本科修業年限を五年に延長
- 大13 制服を洋服とし新入学生より着用とす(夏は水色のギンガム、冬は紺色)
- 大14 摂政宮殿下(昭和天皇)行啓台覧
- 昭3 第二高等女学校新設のため本校第二・三学年を両校に配分、本校には各学年二学級を収容
- 昭4 本科修業年限五年となる
- 昭4 籠球部神宮競技会決勝進出
- 昭7 山形県立山形第一高等女学校と改称
- 昭7 ロサンゼルス第十回オリンピック大会へ女子師範二年柴田タカ出場
- 昭9 籠球部日本選手権大会優勝
- 昭9 創立三十二年記念式を挙行、新校旗樹立式
- 昭19 理化学室より出火して校舎を全焼、体育館を半焼、三月一日より授業開始
- 昭19 第五学年生徒、生徒動員として日本飛行機株式会社に出動決定
- 昭19 第四年生生徒、川崎市東京芝浦電気株式会社・明治産業株式会社へそれぞれ動員決定
- 昭21 庭球部東北選手権大会優勝
- 昭22 生徒代表県知事及び市長に復興問題について陳情
- 昭23 学制改革により新制高等学校となり、山形県立山形第四高等学校と改称、第三学年をこれに編入
- 昭24 新校舎(末広町二番地)に移転開始併設中学校を廃止
- 昭25 山形第二高等学校と統合し山形県立山形南高等学校(西校舎)と改称
- 昭25 パレーボール部全日本高校東北大会で優勝

高等学校100年の歩み

米寿になつた淡淡会

大15年卒 安藤 よしこ

平成九年十一月八日、嚶鳴同窓会。三年も前からクラス会を開くたびに米寿の御祝で同窓会よりお招きがあるはず、皆元気に出席出来るようにと、励まされあつてまいりました。一人減り二人減り、毎年淋しいたより。でも足が悪くても元気な八人仲良く出席出来、同窓会より御祝を戴き、皆この上もなく感激致しております。有難うございました。お礼を申し上げます。私達は淡淡会と名づけ毎年二回クラス会を致して参りました。八十八歳ともなり会計も大変になり、この御祝を機会に解散するこ

感謝申し上げます

昭12年卒 徳永 幾久

私共女子附小のものは廊下を直ぐゆけば女学校。入試当日は隣校として意気軒昂、しかし合格者は半数、入学してみれば先生方の教授法はユニークで思ひ出どころ。林鎌次郎校長はオリンピック選手西田修平・吉岡隆徳氏を招聘し短距離制覇には吉岡氏のスタートの踏出し用穴の指導が必須と。すごい識見です。大八木先生は美術の開拓者。展覧会があれば出せよとの誘い、甘えて現県会議事堂での美術展に出品、此の度改修の壁紙の復元のため当時のものを聞かれた。緩やかな曲線のピンクのチューリップが浮かぶ。調べれば英国に現存する由、先生から確かなる目を頂いたのです。また和裁の不得意な私は襟をあげるのにてこずって友達に助けてもらつていたのです。いい人に手伝つてもらつてよかつたネ。頭の上からの声、斉藤みどり先生です。それから頑張りました。ロンパース、男

西高時代の思い出

昭33年卒 鹿野 和子

思い出すのはゆつたりした校舎で健康的に学び、活動したということであろうか。担任は渡部康夫先生で、大変お世話になった。国連に勤務してからも、アメリカの大学に留学した時も、時々お邪魔してお話を伺った。先生はいつまでも先生、と感じる先生である。私も今、大学で教えてみて、教える子はいつまでも教える子という感じがわかる。タンザニアやトルコの大使館で専門調査員をしていたり、シンガポールで働いていたり、時々手紙をくれる。みんな元気で幸せであつてほしいと思う。

だるまストーブ

昭49年卒 安達 修子

私が西高に在学している頃、各教室にはだるまストーブがあつて、誰かがその係に当たっていました。石炭を切らさぬように燃やして、クラス中の暖をとるので、大変な重責である、係になつた私は、授業中も「頃合」を見てこの責務を行使しました。後になつて「安達は、かけよう」とすると、すぐ石炭くべをした」と、ばれていたのでありますが、万事、こういうことにも先生方はおおいで、一度もご指摘は受けないうで代を振り返っています。

一尺の魂に

昭28年卒 高橋 菊子

初等科五年になるとすぐ、第一女学校へ行かなければなりませんと計算問題をどきりと渡された。昭和二十年のことだ。六年になつて先生が変わつてもそれが引き継がれた。もともと苦手な算数、数字を見ただけで前額部に痛みが走る。教室の窓が青色に染まつた秋の日、ノートにぐるりと8の字を書き、五年生からの特訓でいつの間にか真ん中に7をひとつ濃く書いてハバ洗脳されていたらしい。

「これは何?」突然の声にふり向き、先生の目を見開いた。ドーン・ホセな組合せで東西の校舎にふり分けられた。二年は全員東校舎へ、三年は西校舎に戻るといふどききさ女学校へ行つてからねと、学校へ本を持って行くことを禁止された。翌代、うす暗い映画館通いと目茶苦

茶な小説の乱読でおおかたの時間を過ごした私が二十八年三月受け取ったのは山形南高の卒業証書。告白すると、羽根本のパツジをつけることに割り切れない思いを持っていた私は、制服の裏側に姉から貰つた第一女学校のパツジをつけていた。八咫鏡の徽章こそ、六年の先生への数式では表わせない解答だという気がした。一尺の魂に冠された南高卒にこだわる愚かさを自戒する。が、同窓会総会で西高の校歌が歌えない事実。その時、さつと隣る友人の表情を自ざとく感じるのには気のせいなのか。学校制度に翻弄された私達に創立一〇〇年の伝統をもつ第一女学校のいぶきが受けつがれていふと思うのは傲慢なことだろうか。

- 昭27 山形県立山形西高等学校新設
- 昭28 創立五十周年兼体育館落成記念式典 挙行、校歌制定
- 昭30 国体東北地区予選においてソフトボール部優勝
- 昭30 北海道・東北七県放送劇コンクールに参加、第一位となる
- 昭31 専攻科を設置
- 昭33 六十回記念工事完成、校舎増築工事落成
- 昭35 学校林植えつけ
- 昭36 新校舎、囀鳴会館、石造書庫落成し本校第一次工事完成
- 昭37 囀鳴後援会発足
- 昭38 鉄筋コンクリート三階建校舎完成
- 昭42 家庭科専攻科廃止
- 昭42 水泳部・山岳部インターハイ出場
- 昭43 一時限六十五分授業となる
- 昭44 音楽部NHK全国学校音楽コンクール高校の部全国第一位(48年まで五年連続)
- 昭45 囀鳴祭(初の外部公開)
- 昭45 陸上部・水泳部インターハイ出場(49年まで連続)、活躍
- 昭50 新校旗樹立式
- 昭51 本校敷地内、遺跡発掘調査開始
- 昭52 音楽部ウィーン青少年音楽祭参加
- 昭52 水泳部インターハイ出場(53年と連続出場)
- 昭53 音楽部全日本合唱コンクール全国大会金賞第一位(57年まで五年連続)
- 昭53 弓道部インターハイ出場、活躍
- 昭55 軟式庭球部・陸上部インターハイ出場
- 昭56 音楽部、NHK学校音楽コンクール全国大会高校の部最優秀賞受賞(四年連続)
- 昭57 演劇部県高校演劇発表会最優秀賞受賞(二年連続)
- 昭57 軟式庭球部・水泳部インターハイ出場、活躍
- 昭59 水泳部インターハイ出場、活躍
- 昭62 全国高等学校総合体育大会にバスケットボール部(県第一位)及び陸上部槍投げ選手権出場
- 平5 九十周年記念事業工事、完成
- 平10 山形県立山形西高等学校創立一〇〇周年記念並びに体育館・特別教室棟竣工記念式典挙行
- 平11 『山形西高等学校百年史』発行

山形県立山形西



在職二十一年に感謝

昭31〜昭51在職
前田 春治

音楽堂に残る 熱き思いと栄光の響き

昭42〜昭61在職
阿部 昌司

20世紀もなれば過ぎ、いわゆる美術の中心がパリからニューヨークに移りつつあると思われた頃、芸大卒業期にあった私は創作活動の場を東京でなく、郷里山形に決め、同志と東北現代美術協会を結成、「北展」として動き出した。現在も続け百回展に近い。

その頃、あちこちの講師などをやり山形西高へも非常勤で出向していた。生徒たちの反応の良さ、特に絵画部員的美感覚には好感をもった。そして昭和31年、西高教諭となった。以後二十年間もお世話になり感謝している。

初めの頃の授業では、絵を描いたりする以前の心のあり方などばかり強調し過ぎて失敗、絵画部員の中にもだんだん描かなくなる者が出たので大反省をした。造形の場では常に体と手を動かしながらすすめていかねばならないことを再確認した。

日本の経済成長に伴ってデザイン分野が大きく発展した。この方の無い時代であったが人の心

創立百周年を迎えた年、囀鳴同窓生皆様の長く確かな足跡に思いを致し、西高に勤務した往時をふり返りながら光陰まさに百代過客の感じきりの中にあります。

西高には昭和四十年から十三年間勤務させていただいた。音楽堂やプール、体育館が完成した四十年代、六十五分授業に変わったのもこの当時である。深い専門性を持つ同僚教師と過ごす中で、生徒達からは、たくさんの貴重な豊かさを感じていただいた私三十歳代のすべりに加えた年月である。

ある年の研究授業。教室を東高に移しての東北国語教育研究会の一日。生徒達の予習に多少の不安を持ちながら実施した古典の授業であった。不安は杞憂に終わり、適確な読みと答え方、教材理解を深める予想外の質問などもあって、

連続全国最優秀を果たしていたが、それ以後は最優秀からしばらく遠ざかっていたので私の頭からは結果については意識の中から離れていた。

「おめでとうございます。今日東京NHKで審査会があって、高校の部で山形西高が全国最優秀校に決まったとの知らせが入りました。これは正式の発表までは絶対に来ないで校長先生以外には絶対に漏らさないで表彰式、発表会への上京の準備をすすめて下さい。」と

面への進学希望が高生へ広がった。山形からストリートで東京の美大へ行かせたいと考え、三学年時の数・理の時間を芸術の授業に当てるコースをつくってもらった。プラス放課後ナイターの特別。素質のある西高生がどしどし美大のデザイン科へ進み卒業後は地元・国内はじめフランスやイギリスなどでも活躍している。

また、伝統芸術や生涯教育の場などではやくからその重要性を認識し、積極的に造形の世界へ入って現在活動しているカップバの子がたくさんいるのはまことに頼もしいかぎりである。(カップバ前田)

参観者からは生徒の学習意欲に対する高い評価をいただいた。感想を伝えた翌日の授業で、「先生に恥をかかせません」と笑って言う生徒達が妙に大人に感じられた。

日々の授業における生徒達の目標にむけたひたむきさや豊かな感性に、私は読書欲を促され視野を

西高の日々

昭40〜昭53在職
草壁 喜一郎

広げさせられた思いがある。テニス部の皆さんと過ごした部の活動の日々も忘れ難い。合宿時のランニングや基本練習程度の技術しか持ち合わせぬ顧問であったが部員からは、幾度かの地区優勝やインターハイ出場の感動をいただいた

の話だった。思わず全身から血の気が引いていくのを感じた。冷たい風の吹く駅前通りの、やっただ、やっただと大声で叫び、誰か教えた衝動と興奮をこらえながら宙に舞うような足取りで音楽堂に帰った時のことを、私は今も忘れることができない。

部員がその結果を知り、音楽堂が喜びに沸き返り私の体が宙に飛んだのは、表彰式、発表会のために上京する一週間前だった。

NHKの音楽コンクールは翌五十五年度を含めて山形西高は七回の最優秀校になり、東京のNHKホールに立ち、テレビやFM放送で山形西高が全国に紹介された。又、全日本合唱コンクール全国大会には山形西高十四回出場のうち金賞受賞十回を含め、合わせ十七

の言葉の意味がわかりました」と手紙をくれた卒業生がいた。この手紙には心底元気づけられたし、私にもわかったことが一つ。母校赴任の際にかけられた「あなたを理解してくれる生徒達だよ、良かったね」という言葉の意味である。母校の居心地が良いのは、生徒達に自分が理解されているからだったのだらう……。笑い話も一つ。たんだと、やっとながら、昔々の恩師に対して生徒の私はどうだったのだらう……。笑い話も一つ。たんだと、やっとながら、昔々の恩師に対して生徒の私はどうだったのだらう……。笑い話も一つ。

囀鳴百周年の中で

現校友会長 高橋 和香奈

私達は百周年という大きな節目にこの山形西高で高校生活を送れることをとても誇りに思います。百周年の節目に当たり、三年生を中心に生徒会・部活動として各行事に全校生が団結して取り組んでいます。先に行われた合唱コンクール・校内総体は西高生のパワーが感じられ、大成功に終わることができ、八月末に催される西高最大のイベントである囀鳴祭につながることもできました。囀鳴祭では、部活動では弓道部・なぎなた部のインターハイ出場を始め、放送部の全国大会出場、創設三年目のサッカー愛好会も東北大会ベスト8に入るなど運動・文化部共に活躍を見えています。

後輩印の生徒達

昭54〜平2在職
山口 頼子

ただけは毎時間きれいなおしほりを用意したら、と冗談半分を言っていました。次の授業の時、教卓には赤糸でYORIKOと刺繍したピンクのおしほりが。技あり。

転出が発表になった三月末、全部の全国大会出場、創設三年目のサッカー愛好会も東北大会ベスト8に入るなど運動・文化部共に活躍を見えています。

先輩方が築き上げて下さった囀鳴百年の歴史を継承し、誇りを持って自分を元気づけています。

元気の素は

後輩印の生徒達

昭54〜平2在職
山口 頼子

「授業で学ぶ知識の多くは忘れるだらうけれど、学ぶことも教えることも虚しくはない。全てを忘れることは決してない。十年後、二十年後、残っているのは何だろ。何を残すか、何が残るか考え、何を残したいか、一年生の最後の授業で私の問いかけがずうっと心に出して自分を元気づけています。

創立80周年・90周年当時を振り返って

嚶鳴同窓会のあゆみ

元副会長 大築ヨシ

明治三十一年母校設立以来幾多の変遷や受難をのり越えて、創立一〇〇周年を迎えられ誠にお目出度うございます。創立七十年八十年九十年といつの記念事業も並々ならぬ実行委員の方々の御尽力がありました。大正七年嚶鳴同窓会は学校長が会長として発会しましたが、戦後になって会長は同窓生がなるべきだとの事で、仲野艶・谷口ミヨ両先生が会長として運営される事になったのです。

昭和十九年に火災により校舎焼失と言ふ災難にあい数々の苦勞の末、昭和二十三年には現在地に移転は致しましたが、谷口会長の時の評議員会の議題は必ず校舎復興諸設備の充実についてでした。

其の後会長は、母校の職員が会長でない方がよいとの意見で、同窓生の中から高橋政さんが選ばれた。

また、新会長の発案で昭和五十年に嚶鳴同窓会報が創刊されました。嚶鳴同窓会報の見出しも同窓会員で旧職員だった近藤哲先生の筆になるのです。同窓会館の増築にあたって、同先生の筆跡が残っていると思います。

創立七十周年記念事業の一つで、校舎玄関の塔屋にかけてある嚶鳴のシンボルマークは、著名な工芸家西村忠氏作で校章を中心にしたレリーフで飾った立派なものです。同時に新校旗の樹立、旧校舎より行啓記念の御庭園の移植もありました。御庭園は私共生徒の頃、仲野先生にお作法をお習いした忘れられない所でした。四季の樹木と庭石・石灯笼・飛石まで移され昔の面影を留めております。

女子教育発祥の地に、母校跡地碑建立について、石の種類・場所・

記録する文字・揮毫者などの協議を重ねました。旧校歌を記録するについて一部難色を示した意見もありました。

話はあと先になりますが、第二次大戦の時学徒動員先で生徒職員等の尊い生命の犠牲者があり、御遺族も御一緒にしめやかに法要をすませました。

数々の栄誉に輝く西高音楽部の全国合唱コンクール参加の時、又ウィーンに演奏旅行の時も、同窓会として援助協力に努めました。同窓会名簿も十年間製作製しなかつたので作製に取りかかりましたが、大変な苦勞で五十七年に漸く出来上がりました。其の後平成になって新名簿も完成し何彼と活用しています。今後も同窓会の発展活躍を期待して居ります。

創立九十周年当時を振り返って

前会長 相澤 榮

私達の母校は今年創立百周年という輝かしい年を迎えました。この十月、体育館が改築されますと名実共に西高等学校にふさわしい校舎となり、完備された教育環境の中で学園生活を送ることができるようになったわけですが。

創立七十周年から同窓会にかかわって私には、西高が北関東以北の女子高のトップにあるにかかわらず他の高校と比べ施設設備の貧弱さにも情けない思いを抱いてきました。十年毎の記念事業として学校・後援会・PTA・同窓会が一体となって老朽校舎の改築を陳情しつつ、ようやく一棟ずつの改築が行われてまいりました。そして創立九十周年には最後の老朽校舎が解体され学級増による普通教室・特別教室・多目的教室等を有する三階建の施設が

完成し、その跡地に計画後から二年過ぎた平成五年、念願の嚶鳴会館がようやく建設されました。

思えば西高の生徒達は、いつも工事の騒音の中で大学受験勉強をしていたことになりす。当時の横田校長先生と工事現場を見て廻ったとき、窓越しに見える生徒達の横顔は何事もないように平然とし凛として先生のお声に集中している様子に、可哀想という思いを通りこし西高生のたくましさを感じてまいりました。

校長先生は「この環境にあつても生徒達は学習に部活動に集中力と根気強さで敢然と立ち向かってまことにたのしい限りです。」といわれたことを思い出します。

案の定、大学進学においては本校はじまって以来の記録的な成果を挙げ、音楽部は全日本合唱コン

クールで通算十二回、連続三回目の金賞を受賞、運動部では多くの部門で上位入賞を果たしました。

またJRCのボランティア活動が全国表彰をうけるなど、学校内には活力がみなぎっていた時代でした。ふり返って今年には世界中で個性的な女性の育成を目標として活動してきております。

今母校が創立百周年を迎え完備された教育環境の中で学習できる生徒達が、伝統と歴史を継承し更に発展させ、時代の要請に応えるべく個性を發揮し、それぞれの道で成果を示してくれることを心から念願してやみません。

思えば九十周年の記念式典において講演された森山真弓さんは「今は個性が性を越える時代である。」と結ばれたことはまことに意義があることとあります。

昭和五十六年、大先輩の大宮先生が退職なされて事務局長を引継ぎました。

卒業生が母校に教師として赴任した場合、同窓会の仕事は当然のこと、とは覚悟していましたが、予想以上に厳しい現実が待って居りました。

山形保健所敷地内に建つ「母校跡地」の石碑を御存知と思います。寄付も順調に集まり、完成目前になった時点で、校長の反対表明があり、同窓会と学校教員の立場上の板ばさみで、大変でした。

授業をしながら、同窓会の事務的なことをするわけです。こまごまとした雑用が結構あり、評議員の方達の親身で御協力を、どんなに助けて頂いたことでしょうか。「専任の事務員を」との声が当時からありましたが、まだ実現されていません。

五十七年の、黄土色表紙の名簿は、編集委員諸姉と共に、気の遠くなるような手作業の連続で完成しました。三十数回の作業日程の中であつた数々の面白いエピソードなど、紹介出来ぬのが残念です。

「思い出を持たない人間は味気ないが、思い出に生きる人生はつまらない。」と、退職と同時に、種々の記録は小屋の奥深くに、記憶は頭の片隅に追いやった生活をしている私に、原稿依頼があり困惑している所です。思い出せば、昭和五十五年春、母校西高に転勤を命じられて10年間、種々の事がありました。昭和60年、木口先生から仕事を引継いで、一番心に残っているのは、創立90周年の事です。当時、校内理事3人(翌年、増員)、目標額を達成できるか、とても心配でした。相沢会長、赤間・稲村両副会長、評議員、級幹事の並々ならぬご努力で、目標額をはるかに越える寄付を頂く事ができました。

暑い夏の日、暖房付?の車で、会長さん、その他の方々と走り廻った事、蒸し風呂の様な化学準備室で、評議員の方に仕事を手伝って頂いた事、今は懐かし思い出します。本当に有難うございました。私の貴重な体験の一つとなりました。最後になりましたが、創立百周年おめでとうとございます。ご成功を。

木村洋子先生 和マサエ先生



校内理事としての日々

～歴代校内理事長から一言～



栗野紘子先生 鈴木雅子先生

「母校出身の先生にはね、同窓会の仕事もあるのよ」。昭和三十九年四月、新採として母校に赴任した私は、見立先生にこう言われ、同窓会の会計簿を手渡されました。これが校内理事としてのスタート、創立六十年代のことです。当時はまだ総会の当番制もできておらず、その企画・運営すべて校内理事がやっておりました。これが私たちの最大の仕事でした。総会の前日には、夜の二時頃まで準備に追われたこともありました。体育館にゴザを敷き、折り詰すしを食べながらの総会でした。

その後私は転勤。平成二年に再び母校に戻り、同窓会が非常に生き生きと活動している姿に目を見張りました。総会も当番制となり盛大に開催され、評議員を中心とした委員会活動の中で会報も定期的に発行される等、隔世の感がありました。また会員個人レベルでの発表会や展覧会が盛んに催されるようになったことも、すばらしいことと思います。

同窓会がますますの発展・充実をお祈りします。

「思い出を持たない人間は味気ないが、思い出に生きる人生はつまらない。」と、退職と同時に、種々の記録は小屋の奥深くに、記憶は頭の片隅に追いやった生活をしている私に、原稿依頼があり困惑している所です。思い出せば、昭和五十五年春、母校西高に転勤を命じられて10年間、種々の事がありました。昭和60年、木口先生から仕事を引継いで、一番心に残っているのは、創立90周年の事です。当時、校内理事3人(翌年、増員)、目標額を達成できるか、とても心配でした。相沢会長、赤間・稲村両副会長、評議員、級幹事の並々ならぬご努力で、目標額をはるかに越える寄付を頂く事ができました。

暑い夏の日、暖房付?の車で、会長さん、その他の方々と走り廻った事、蒸し風呂の様な化学準備室で、評議員の方に仕事を手伝って頂いた事、今は懐かし思い出します。本当に有難うございました。私の貴重な体験の一つとなりました。最後になりましたが、創立百周年おめでとうとございます。ご成功を。



竣工した新体育館

10月24日以降解体作業が行われる旧体育館(第二体育館)

「山形西高等学校百年史」

執筆の先生方にうかがいました

座談会日時
平成十年六月九日午後三時

出席者
・日野顕正先生
（執筆者・昭34～昭45在職）
・大塚浩介先生
（執筆者・昭55～昭62在職）
・鈴木 實先生
（執筆者・昭43～昭54、昭56
昭63在職）
・青木智子（司会・会報編集委員）
・玉田アサ（会報編集委員）
・鈴木 貞（会報編集委員）

いかと思つておられる。ご協力下さった各方面の方にお礼を申し上げます。

「大塚」最近県内の各学校の記念誌を見ると写真を中心としたものが多く出ていますが、本校は百周年という大きな節目であり、しかも山形西高は、戦前県内唯一の五年制の女学校、そして女子師範と併置されている学校で、県でも女子校の中心校として期待し地域社会もそう見ていた。そういう学校であるからこそ立派な記念誌を作る責任があると私は思った。ただいざ自分が書くとなると昭和十九年に火災で資料が焼失してしまっている。私は戦前を担当した関係上資料を探すのに大変苦労したのは事実。しかし記念史部会の同窓会委員の方々の協力を得て、例えば山形新聞のマイクロフィルムで実に丹念に資料を探してくれ、聞き取りの同窓生や旧職員に連絡をとってくれたりしたので、充分とまでいかなくとも私の目指した記念史に近づけたのではないかと思っている。

「鈴木」重複すると思うが、これまで十年刻みに記念誌を作ってきたが、八十年九十年度の頃、この際本格的なものを作らうという大塚先生あたりからの提案があったが、現職時代は忙しくてとてもその余裕はなかった。しかし本校には卒業生、旧職員を含めて執筆される有能な方が沢山いるので、誰か引き受けて下さるなら早めにつたらいののではないかとこの気持ちはあった。それでいよいよ百年史となると当然、これまでのような回想のまとめではおさまらないのではないかと思っていた。そんなところから執筆をお願いされた。

自分担当する時期を読んだ。県内二十数校と県外数校分を読んだ。本校の教務日誌と、自分が勤めていた時期については自分の日記からも拾い、学校要覧や復刊後の「嚶鳴」には全部目を通した。県立図書館にはいつも協力頂いた。聞き取りの訪問や座談会もお願いした。記念史部会の同窓生委員には絶大な支援を頂いた。他校でこれ程協力してくれた例はないのではないかと。特に山形新聞の記事をとってくださったのは有難かった。石蔵の資料館では毎回川崎の生徒動員で亡くなられた方々にお語りしてから作業をしたが、いろいろ資料を見つければ、校舎復興関係の中に委員だった母の活躍を見て感動した。以上の全部をワープロに取めた。資料が足りないと思っていたが、これだけあったかと思つた。

「鈴木」私の分野は最も資料があるようだが、結論的には内容のある資料が少なかった。旧職員や卒業生など、多くの方々が現在の先生方から部活内容の聞き取りなどをさせてもらった。ここでお礼を申し上げます。



大塚先生

「大塚」明治時代からの校友会誌「嚶鳴」を卒業生の協力で三分の二くらい集めて頂き資料として利用した。私は卒業生四十人旧職員は十五人位の方に聞き取りや座談会をお願いしたが、いずれも協力的で調べるのに助かった。最高齢は明治二十九年生まれ三年前百二才だったが、卒業生に共通な点は母校に強い誇りと愛着を持っていること。そのプライドが生き方への自信や積極性を生んでいることを感じた。数回もお邪魔した人も百年史も多難の道を進んで来たのだなと痛感した。

「鈴木」校友会誌を読むと、数年に一回ぐらゐ「本校の嚶鳴精神とは何ぞや」とか「西高生は他校生にどういふ個性があるか」とかテーマを決めて座談会形式、あてはめアンケートをとって調査している。これなども本校生ならではのところだと思つている。

「大塚」おわびですが、資料提供してくれただけで紙面の都合で載せられなかったのもかなりあった。学校の歴史なので個人は多く載せられなかったので申し訳なく思つている。ご了承願ひしたい。

「鈴木」おわびですが、資料提供してくれただけで紙面の都合で載せられなかったのもかなりあった。学校の歴史なので個人は多く載せられなかったので申し訳なく思つている。ご了承願ひしたい。

「日野」印刷に出した後も書き足す。先生方お忙しいところ、本当に有難うございました。

実行し、他校のリリーターの役割を果たしていたのは事実。例えば、大正十三年に洋服の制服を県内最初に制定した。スポーツでも籠球や排球を最も早く取り入れ、学生スポーツとして盛んにしたのも本校。又制度の面でも県内唯一の五年制の女学校として、県内唯一の自覚と誇りが嚶鳴精神かな。

「鈴木」嚶鳴精神。西高の誇れるのは学力ばかり優れているのではない。文武両道に取り組み姿勢だと思ふ。音楽部の活躍、NHK合唱コンクールだけでも七回最高賞をとっている。理科・美術・放送・作文・演劇、武の方では水泳で三年連続インターハイ出場するのが五名もいた。バスケット・陸上・山岳・ソフト・なぎなた、それぞれ名門校となっている。この個性の切磋琢磨する力が嚶鳴精神なのである。

「日野」戦前の本校のプライドとか戦中戦後のことも姉達が生で育つたもので、幼い頃から感じて育つた。戦後の復興の時期は百年史の中でも「最大のドラマ」と思ふ。戦災で焼けた学校は全国に数多くあるが、本校はそれらと事情が違ふ。生徒の復興委員が中心となって強力な運動を展開したわけだが、あの辺は、私も書きながら涙がにじんで来るような思いだつた。昭和二十四年の四高の落成式の時、復興委員長だった平沢清三の苦しい生活や、空襲で亡くなられた教師と生徒たちのこと、平和な時代に生きる生徒たちに読んでほしい。それと③明治四十年と昭和九年に焦点をあて、戦前の女子の学校生活を点描してみたところなどです。

「大塚」とにかく県内で自分たちの学校は女子校の本山である、と自覚し、何でも率先して取り入れ

「鈴木」校友会誌を読むと、数年に一回ぐらゐ「本校の嚶鳴精神とは何ぞや」とか「西高生は他校生にどういふ個性があるか」とかテーマを決めて座談会形式、あてはめアンケートをとって調査している。これなども本校生ならではのところだと思つている。



鈴木先生

「大塚」とにかく県内で自分たちの学校は女子校の本山である、と自覚し、何でも率先して取り入れ

「鈴木」校友会誌を読むと、数年に一回ぐらゐ「本校の嚶鳴精神とは何ぞや」とか「西高生は他校生にどういふ個性があるか」とかテーマを決めて座談会形式、あてはめアンケートをとって調査している。これなども本校生ならではのところだと思つている。

「大塚」とにかく県内で自分たちの学校は女子校の本山である、と自覚し、何でも率先して取り入れ

「日野」印刷に出した後も書き足す。先生方お忙しいところ、本当に有難うございました。

「大塚」とにかく県内で自分たちの学校は女子校の本山である、と自覚し、何でも率先して取り入れ

「鈴木」私の分野はドラマチックなところがないので、それだけ迫力の為、百周年を目前にした西高をクローズアップしたかった。

「大塚」とにかく内容的には他校

「日野」印刷に出した後も書き足す。先生方お忙しいところ、本当に有難うございました。

「大塚」とにかく県内で自分たちの学校は女子校の本山である、と自覚し、何でも率先して取り入れ

「鈴木」校友会誌を読むと、数年に一回ぐらゐ「本校の嚶鳴精神とは何ぞや」とか「西高生は他校生にどういふ個性があるか」とかテーマを決めて座談会形式、あてはめアンケートをとって調査している。これなども本校生ならではのところだと思つている。



「大塚」とにかく県内で自分たちの学校は女子校の本山である、と自覚し、何でも率先して取り入れ

（文責 鈴木貞・玉田）

平成9年度経常費決算

1 収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 増減(△), 摘要. Rows include 入会費, 会費, 雑収入, 計.

2 支出の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 残額, 摘要. Rows include 総会費, 会議費, 後援費, 記念品費, 印刷発行費, 事務費, 通信費, 慶弔費, 交通費, 諸費, 予備費, 計.

3 差引残高

総収入 2,040,788円 総支出 2,001,613円 差引残高 39,175円

平成10年度経常費予算

1 収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 項目, 前年度予算額, 本年度予算額, 増減(△), 摘要. Rows include 入会費, 会費, 雑収入, 計.

2 支出の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 項目, 前年度予算額, 本年度予算額, 増減(△), 摘要. Rows include 総会費, 会議費, 後援費, 記念品費, 印刷発行費, 事務費, 通信費, 慶弔費, 交通費, 諸費, 予備費, 計.

平成9年度基本金決算

1 収入の部 (単位:円)

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 前年度繰り越し金, 前年度経常費残, 総会祝い, 総会残金, パツヂ立替分, 利子, 定期預金利息, 普通預金利息.

2 支出の部

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 総会補助, 記念品(牛の置き物), 記念品(風呂敷).

3 差し引き残高

9,722,691

校内事務会報担当: 鈴木裕子, 鈴木和子, 鈴木智子, 鈴木玲子, 鈴木智子, 鈴木玲子, 鈴木智子, 鈴木玲子.

「嚶鳴」の精神に深い感銘を受けた日を思いおこして... 同窓会報百周年記念号を編集し、心から豊かな思いにひたっています.

平成9年度会務報告

- 平成9年 4月8日 入学式
5月8日 平成8年度同窓会会計監査
5月15日 第1回評議員会
6月22日 東京支部総会(於:東京プリンスホテル)
6月25日 創立99周年記念式・校内合唱コンクール
8月8日 第1回クラス幹事会・第2回評議員会
11月8日 同窓会総会(於:オーヌマホテル)
平成10年 2月27日 同窓会入会式
3月1日 卒業式

平成9年度 維持会費納入状況

1. 平成9年度(1997年4月~1998年3月)に納入されたもの

平成8年度(1996年度)以前分

- 西高 S37 1 松田 克子(S59) S54 1~6 斎藤 明美(S59~H8)
S37 4 中村 京子(H6~8) S55 1 横山 秀穂(H1~8)
海谷 修子 2 中村 由美(H1~8)
S42 6 藤田やす子(H8) 4 斎丸 俊恵(H1~8)
S44 2 窪田 陽子(S58~H8) 5 佐直 春美(H1~8)
S45 1 原田一二美(H8) 6 星 淑子(H1~8)
S48 6 齋藤ゆたか(H8) S56 2 神保 由美(S62~H8)

平成9年度(1997年度)分

- 女師 S14 一部 鈴木 芳 S28 1~4 菅野 節子
二部 森谷 フサ S29 1 星 幸子
S15 一部 高内 キクエ 西高 S30 1~4 佐藤 伶子
二部 上嶋 西代 S31 2 西村 仙子
S16 一部 丸岩 まさき 3 三浦 直子
二部 1~2 永沼 基 4 倉金 宓子
S17 二部 1~2 小林 ちよ S32 専 堀米 弘子
S18 一部 五十嵐 テル子 S34 1 加藤 静子
二部 1~2 鈴木 美佐子 2 今野 千恵子
大江 節子 3 日野 紀子
高女 S12 1~2 福田 房 4 伊藤 美保
中村 チエ S35 1~5 米本 美智子
S13 1~2 鈴木 操 S36 1~5 長岡 玲子
S14 1~2 長沼 勝子 S37 1 松田 克子
S15 1~2 會田 トシ 2 田中 きみ子
S16 1~2 江口 禮 4 中村 京子
小野寺 ヤエ 海谷 修子
S17 1 斎藤 美代 S38 1~5 吉田 和子
S18 1 相馬 弘子 S39 1~5 富樫 昭子
S19 1 山路 百合子 S42 4 中村 眞規子
2 坪沼 登美 6 藤田 やす子
S20 5年卒1 菅原 タカ S43 1~6 新藤 由美子
2 阿部 英子 S44 1~6 清野 和子
3 小嶋 綾子 S45 1 原田 一二美
S20 4年卒1 中原 えい子 S46 1~6 青木 智子
2 渡辺 絹子 S48 6 斎藤 ゆたか
3 丹野 静枝 S54 1~6 斎藤 明美
S21 4年卒 橋詰 絢子 S55 1 横山 秀穂
S22 5年卒 橋詰 絢子 2 中村 由美
S22~24 阿部 明子 4 斎丸 俊恵
S23~25 須貝 清子 5 佐直 春美
南高 S26 1 細矢 貞子 6 星 淑子
2 土屋 幸子 S56 2 神保 由美
3 曾根田 香夏子 S61 4 桑山 久爾子
4 中村 あさ子 荻野 千亜紀
S27 1~5 安藤 朋子

平成9年度(1997年度)以降分

- 西高 S54 1~6 斎藤 明美(H10) 4 斎丸 俊恵(H10~12)
S55 1 横山 秀穂(H10~12) 5 佐直 春美(H10~12)
2 中村 由美(H10~12) 6 星 淑子(H10~12)
<1997年4月~1998年3月納入分 延221クラス分 749,000円>

2. 平成8年度以前に平成9年度分が納入されているクラス(納入者氏名省略)

- 高女 S17 2 S47 1 H4 全クラス
S18 2 S49 1・4・5 H5 全クラス
南高 S29 2~5 S50 2~6 H6 全クラス
西高 S32 1~4 S52 1・2・4・6 H7 全クラス
S37 3 S55 3 H8 全クラス
S45 3・4・6 S62 4 H9 全クラス